

◆編集部事業報告（2023年7月～2024年6月）

月刊『現代俳句』冊子版（通算691～704号）の発行に取り組んだ。

【7月号】現代俳句と海外事情 木村聡雄

▽ポストコロナ時代の俳句会 岡田耕治

【8月号】新興俳句逍遥？ 高野ムツオ

▽人工知能が俳句を評価する？ 栗林浩

【9月号】第78回現代俳句協会賞 井口時男

【10月号】渡邊白泉研究余滴？ 川名大▽新興俳句逍遥？ 井口時男

【11月号】第24回現代俳句協会年度作品賞 高木宇大

▽新興俳句逍遥？ 久保純夫

【12月号】俳句形式のデザイン 林桂

【1月号】季語は生きている 筑紫磐井

【2月号】第60回現代俳句全国大会 講演 赤坂憲雄

【3月号】1970年代の俳句論 大井恒行

【4月号】河東碧梧桐小論 秋尾敏

【5月号】俳句の未来は現代俳句協会が創造する 高野ムツオ

【6月号】第41回兜太現代俳句新人賞 楠本奇蹄

これと並行し、新たな試みとしてWEB版『現代俳句』を創刊した。創刊（2024年1月）号で長井寛編集長（当時）はその意義について「俳句を介して世界中の人達が胸襟を開き真実を語り合う時代の到来です。現代俳句協会創刊のWEB版『現代俳句』がhaikuを愛好する世界の人々の一助になれば望外の喜びです」とグローバルな視座から語っている。

【創刊号】俳句は「体験」か「経験」か 有本仁政

【2月号】欧米俳句と干支 木村聡雄

【3月号】俳句の時間—松尾芭蕉の俳句を通して—千葉みずほ

【4月号】筑紫磐井『戦後俳句史』書評 井口時男

▽ふるさと巡り 蕪村の妻？ 内田茂

【5月号】俳句と読者、そして社会—安西篤の四句集に見る対話の在り方—田中信克

【6月号】ぼくらは俳句を、ぼくらは詩歌を。—佐藤文香詩集『渡す手』を読む—岡村知昭

（了）

顕彰部

部長 宮崎斗士

顕彰部・事業報告

(2023年6月～2024年6月)

○第78回現代俳句協会賞

受賞 井口時男『その前夜』

令和5年6月24日、選考委員会を開催。討議の末、委員各々が受賞者に推す1名を決定。その結果、井口時男・松井国央の推薦者がそれぞれ2名、佐孝石画1名となった。井口・松井に絞ってさらに討議。最終的に井口時男が4名の推薦を得た。よって井口時男の第78回現代俳句協会賞受賞を委員全員一致で決定した。

○第43回現代俳句評論賞

令和5年7月1日、選考委員会を開催。応募総数15編。全体的に最も高い評価を得た石川夏山の一編につき全委員による討議が行われた。その結果受賞作なし、石川夏山「河原枇杷男俳句における認識論と存在論」を佳作とすることで委員全員の意見が一致した。

○第24回現代俳句協会年度作品賞

受賞 高木宇大「目覚めさす」

令和5年7月15日、選考委員会を開催。応募総数187編。委員全員による討議、そして投票。高木宇大「目覚めさす」、石井清吾「転居」、木村和也「小さな化石」の3編が残った。さらに論議を重ねた末、3編を対象として順位を付し再投票。その結果、最高点を獲得した高木宇大「目覚めさす」の年度作品賞受賞、次点の石井清吾「転居」の佳作受賞を委員全員一致で決定した。

○第41回兜太現代俳句新人賞

受賞 楠本奇蹄「触るる眼」

令和6年3月9日、選考委員会を開催。応募総数49編。事前に楠本奇蹄「触るる眼」、とみた環「詩と吃音」、十川長峻「路上よりの歌」の計3編が最終候補作に決定。選考委員会当日は最終候補作を1編ずつ選考委員全員が講評。そして委員全員が3編の中より特に推薦する作品2編を順位を付けた上で決定、投票。その結果、最高点を獲得した楠本奇蹄「触るる眼」の兜太現代俳句新人賞受賞、および他の最終候補作2編を兜太現代俳句新人賞佳作とする旨を委員全員一致で決定した。

研修部

部長 なつ はづき

(講師は敬称略とさせていただきます)

●研修通信俳句会 (通信による互選の句会)

四月より第30期開始。講師は林桂・小田島渚。毎回約3分の1が新規入会。全国の会員の交流の場となっている。

●俳句教室 (本部図書室にて。月1回の対面での俳句教室。期間は2年。)

今年度より講師を一新し、松田ひろむ (火曜)・羽村美和子 (水曜)・宮崎斗士 (金曜)・塩見恵介 (インターネット句会) の四教室を開講。講師の工夫により、特色の色濃く出た教室となっている。

●初心者講座

後藤章・五十嵐秀彦両氏による2講座を開講。主に会員外から受講者を募り、俳句の裾野を広げる活動となっている。

●添削教室 (主に会員外)

講師は赤羽根めぐみ・加藤知子・神田ひろみ・杉浦圭祐・田中朋子・中内亮玄・なつはづき・武馬久仁裕・松本勇二の9名。

今年度より、研修部は旧事業部の「全句講評講座」と「現代俳句講座」の2事業を担当することになった。以下の通り準備を進めている。

●全句講評講座

各地区協に研修部より講師を派遣し、現地で全句講評講座を開催。運営は各地区協で行う。今年度は福岡と東海地区で開催予定。

●現代俳句講座

年に一度、東京都荒川区のゆいの森あらかわホールにて行う講座。今年度は10月27日(日)。出演は高野ムツオ、星野高士、司会は筑紫磐井。タイトルは「この一句をどう読みますか？」対談方式で、それぞれの師である金子兜太、高濱虚子の一句を2人で語り合っていていただくという企画。

●評論教室 (8月開講)

今年度より新設。内容の異なる三回の講座で構成。申込多数あり。関心の高さが伺える。

出版部

部長 上田 桜

出版部、事業報告（令和5年7月1日～令和6年6月30日）

昨年度の7月1日からの句集作成は5冊完了、現在2冊進行状況であり、句集の問い合わせは3件程度です。

これからの出版部での従来目標は年間10冊程度としています。句集の装丁はプロのブックデザイナーの方に依頼しています。著者の意向を尊重し取り入れることにより、より良い句集の製作に努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

出版部では句集の製作に手数料を省いています。なるべく多くの方が低料金で出版できるようという出版部の理念でもあります。それに伴い、青年部や他の若い方を対象にもっと安く出版ができないかとの問い合わせが聞かれるようになりました。今後の課題として早急に検討をしていきたいと思っております。

年鑑部

部長 田口 武

令和5年度の部長は山本敏倅、部員は秋谷菊野、石口りんご、川崎果連、川名つぎお、田口武、西本明美、羽村美和子、町野敦子、本杉康寿、森須蘭、山田ひかる、我妻民雄。

◇『現代俳句年鑑2024』の発行

諸家近詠は1人5句で、総句数7675句を掲載。総句数を5で割ると1535人になるが、表紙には1670人とある。その差の135人は、購読のみの申し込みということになる。参加句は、従来の形式に合わせ50音順に配列。

「現代俳句協会顕彰作品集」として、第23回現代俳句大賞、第40回兜太現代俳句新人賞、第76回現代俳句協会賞、第24回現代俳句協会年度作品賞を掲載。また、「現代俳句協会顕彰者一覧」として、歴代の受賞者を掲載。

他に、会員の最新案内、出版部作成の出版物の案内、物故会員追悼、俳誌のプロムナード、協会役員、顧問、名誉顧問、各委員会委員、各地区事務局一覧等も掲載。

各部活動報告と各地区活動報告は令和4年度からホームページに移行しているが、このことで会員からの意見等による混乱はない。

◇『現代俳句年鑑2025』の発行へ向けて

令和6年度から部長が田口武に代わった。山本敏倅前部長は部員として残り、新部長を助けている。他の部員は、秋谷菊野、石口りんご、川崎果連、川名つぎお、西本明未、羽村美和子、町野敦子、本杉康寿、森須蘭、山田ひかる、我妻民雄で、前年度と変わらない。また、年鑑の内容も昨年度と変わるところはない。

校正漏れのないことを目標に、初校から五校、念校と毎回複数人で校正を繰り返しているが、それでも毎年度数か所の校正漏れが出てしまうことは残念な点である。

採用する漢字は、基本的には改正常用漢字表にある漢字、人名用漢字、表外漢字字体表の印刷標準字体とそれらの旧字（作者が使用している場合）を用い、それぞれにない漢字については、漢和辞典等の示すいわゆる康熙字典体を用い、異体字や略字は用いないことにしている、校正時に書き替えている。

歴史的仮名遣いについては、誤りを訂正している。

文語文法については、辞書には「特に平安時代を基礎として発達・固定した言語の体系、または、それに基づく文体の称」とあるが、現代俳句協会にはさまざまな俳句観の人たちが集まっているので、文法上の正解を辞書に書かれていることひとつには絞れないことから、基本的には原稿のママとしている。

地区活動報告と各部活動報告は、今年度もホームページに掲載することで原稿を依頼したが、地区活動報告については、事務局が依頼した原稿と重複するところがあるという意見を頂戴した。この課題については、次年度から意見に添えるように事務局と協議している。

青年部

部長 黒岩徳将

青年部事業報告

昨年度までの取り組みの総括・今年度以降の計画や抱負

〈基本活動〉

- ・年3回の勉強会開催
- ・定例会「ゼロ句会」（49歳以下）「イチ句会」（青年部限定）実施
- ・「現代俳句」の「翌檜篇」にて全国の会員の作品・文章を掲載

〈昨年度の取り組み〉

- ① 定常活動である「ゼロ句会」を、オンライン開催として継続。4月にはゲストとして「藍」主宰の花谷清氏を迎えて開催した。兼題は「速さを感じる一句」「遅さを感じる一句」などテーマ詠に挑戦している。
- ② 昨年から協会全国大会にて「学生の部」（今年から「青年の部」に名称変更）開催。俳句に懸ける全国の高校生・大学生相当年齢の方を支援するという目的の元、開催した。960句程度の句が集まり、各選考委員の正賞・準賞・入選を設け、正賞受賞者に全国大会に招待、大会終了後には応募者を迎えた「こんにちは句会」をオンラインで開催した。
- ③ ネットでの投句・選句で完結する「イチ句会」を青年部内で月例実施。

〈今年度以降の活動〉

- ① 青年部限定で俳句の現在的な問題を考えるトークイベント「イマココ現代俳句」を隔週で開催中。
- ② 文学作品の展示即売会で小説や評論、詩歌など様々なジャンルの作り手と読み手が集う人気のイベント「文学フリマ東京」に現代俳句協会として青年部・事務局・出版部と協力して出店した。協会関連書籍として、青年部員の刊行句集、『シリーズ・現代俳句の100冊』などを販売。一般来場者1万人を超えた当日、総計109冊を販売することができました。

〈勉強会開催テーマ・出演者〉

第179回勉強会「『新興俳句』の現在と未来」

今井聖・筑紫磐井・鈴木光影

第180回勉強会「俳句の隣人?ビブリオバトル×俳句の摩擦熱?」

大西美優・堀内八衣乃・黒岩徳将・後藤章

〈本年度の活動目標〉

イベントの開催頻度を昨年より増加させつつ広報を行うことで青年部に関係する人口をさらに増やしていく。

社会事業部

部長 堀田季何

社会事業部事業報告

この度、社会事業部が新設された。協会は、若手俳人の職能団体としてスタートした後、会員の親睦及び会員向けのサービスを主とする団体になったが、一般社団法人化に伴い、協会外に向けた事業も積極的に展開することになった。その根拠として、法人定款には「当法人は、現代俳句の振興の重要性に鑑み（中略）俳句文芸への認知向上、ならびに文芸活動及び文化生活に寄与することを目的と」することが明記されており、一部事業として「俳句文芸に関連する地域活動の支援及び助成、ならびに地域振興」、「俳句文芸に関連する研修、交流、人材育成及び相談援助」、「俳句文芸に関連する専門家や国内外の文芸団体との交流及び連絡提携」などが挙げられている。すなわち、地域振興、幅広い層への俳句の普及、俳句を通じた国内外の交流などが想定され、それらの多くは、社会事業部が行う事業の範疇に入る。

当面、社会事業部は、ジュニア俳句を主軸に活動を行う。主に、小中高大に在学する年齢層を対象に、俳句を普及させる事業である。生命について、地域の自然や文化について、SDGsについて、社会や世界についての教育手段としても期待される。但し、以前存在したジュニア部と違い、寄付金、助成金、補助金を集める形で資金調達を行い、持続可能な社会事業として育ててゆく計画である。令和6年6月時点では、公益財団法人公益推進協会からJM基金50円の助成を受けることが決定している。

国際部

部長 木村聡雄

国際部事業報告（令和5年7月～令和6年6月）

現代俳句協会国際部は、今日世界で俳句が書かれている状況において、世界との俳句交流を図る本協会の窓口としての役割を果たしている。その活動の中で、海外俳句の動向を捉え、またわが国からも俳句発信も行っている。

現代俳句協会の世界での知名度向上に従い、海外からも俳句関連の問い合わせなどが増えてきている。本年6年2月にはイラク詩人（ハシム・サライ氏）から短詩集『名前にまつわる言語と祝典』が寄贈された。（イラク詩人の希望は、イラクへ進出している日本の自動車関連企業の駐在員に託され、帰国したこの元駐在員の方が詩人に代わって本協会を訪れ、詩人の短詩にまつわるメッセージを伝えてくれた。）イラクの短詩は日本では話題に上ることも少ないとはいえ、実は2年ほど前の令和4年（2022年）には、外務省「外国報道関係者招聘」事業により招聘されたイラク記者が日本の短詩に興味を持っていて俳句団体を取材したいとのことで本協会を訪問し、国際部で俳句の歴史や状況などの説明を行った。

本年春には中国俳人からも問い合わせがあり、自作の日本語俳句についてコメントが欲しいとのことで国際部として対応中である。

近年、俳句の「ユネスコ世界遺産」登録運動が話題となっているが、現代俳句協会国際部も国際俳句協会のほか、俳人協会や日本伝統俳句協会とも協力し合い、俳句4協会が一丸となってこのプロジェクトに取り組んでいる。ユネスコ登録にはその前に日本の「無形文化財登録」が必須であるが、皆様のご理解・ご支援により、この春には管轄する文化庁により、俳句を含む短詩型文学の調査に入ることが決定され、俳句の無形文化財登録準備へと一歩具体的に動き出すことができた。

今後は海外俳句の投句受け入れなどに関して具体的な策を検討してゆく予定である。

GHOC

センター長 網野月を

今年の3月16日の社員総会で正式に発足した部署である。6月末日現在では、委員の委嘱、これからの運営計画素案の策定、GHOCセンターの提案書の作成および提案先のリスト作成などが主な活動であった。